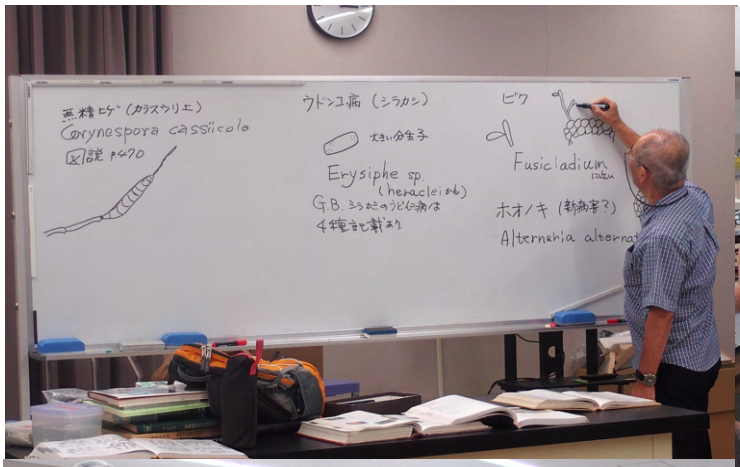
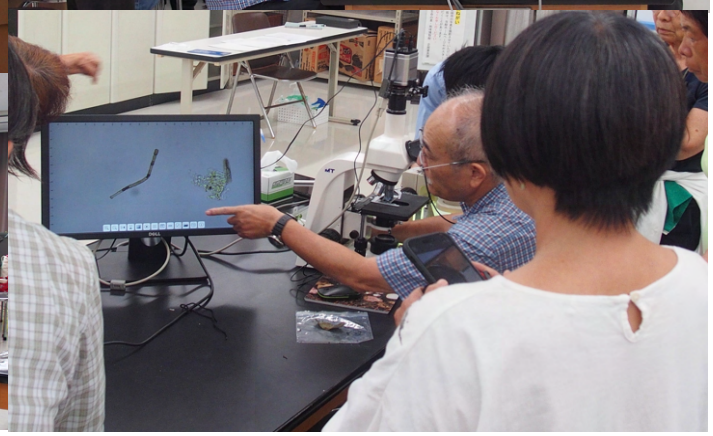
神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

125
2024.09

Vol.28 No.2 通巻 125 号　2024 年 9 月 15 日発行（年 4 回発行）





<<講座紹介>>

コロナ禍と「新・入生田菌類誌」刊行のため、５年間休止中だった活動グループ「菌学事始め勉強会」が再開しました。再開第１回は、「植物病原菌」の実習講座。この分野飛び切りの先生、佐藤豊三氏をお招きして、生徒 15 人が熱心に学びました。以降、２回の勉強会の約束も取り付けるなど、先生も圧倒される迫力の勉強会でした。

目　次

事務部より・・・

事務部より

2024年度第 2 回友の会役員会の開催

2024 年 5 月 11 日（土）14 時より、オンラインにて今年度第 2 回の友の会役員会を開催しました。

まずは現在の会員数及び収支についての報告がありました。続いて事務部より総会及び総会イベントの結果報告、総会でいただいた質疑等については、次回（6 月）発送の報告書に対応を記載することなどが決まりました。

また、現在（3/15～5/6）に行われているミニ企画展について、来年度も同様の内容で行うことの確認、5/25 のサロン・ド・小田原での運営について、次回の総会の日程（2025 年 4 月 26 日を予定）や総会イベント（自然観察会を予定）について整理しました。

2024年度第3回友の会役員会の開催

2024 年 6 月 22 日（土）13 時より、第 3 回の友の会役員会を開催しました。

会計報告のあと、総会での質疑への対応確認、例えば講座参加時の服装や格好などが分かるような工夫等を行う、と行った事項の確認を行いました。また講座の申込み方法について、WEB フォームによる受付を始めていますが、友の会課員ではない方も参加できるオープンの講座の場合の対応等など、どうするかの検討を行いました。

博物館からは 7 月 13 日より開催される特別展「生命の星・地球博物館の 30 年」の紹介がありました。特別展は 11 月 4 日まで開催していますので、まだご覧いただいていない方は是非ご覧ください。（ちなみに、友の会は博物館開館 1 年後に発足しましたので、来年が 30 周年です）

● 友の会運営のお手伝いを募集！

友の会では、運営のお手伝いをしていただける方を募集しています。資料の発送や会計事務、友の会通信の企画・作成、ブログ等での情報発信作業など、ご興味のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

（友の会事務局）
Tel:0465-21-1515、E-mail:kpmtomo@ybb.ne.jp

情報クリップ

友の会会員数：339名（8 月 1 日現在）
正会員：336名／賛助会員：3 名

●特別展「生命の星・地球博物館の 30 年 ー 120 万点から厳選した資料で振り返る ー 」のご案内

開催期間：2024 年 7 月 13 日（土）～
11 月 4 日（月・振休）

平成 7（1995）年 3 月に開館した生命の星・地球博物館は、今年度開館 30 周年を迎えます。県立博物館から引き継いだ約 20 万点の資料でスタートした当館は「集める」「調べる」「伝える」の活動を地道に重ね、30 年間で資料は約 6 倍の約 120 万点に達しました。30 周年という区切りの年に、これまで集めてきた資料、学術活動の根拠となった資料、特別展や講座などで使用した資料を用いて、当館の活動を振り返ります。また、学芸員やご来館のみなさまが考える当館の未来像を展示し、館長からのメッセージをお届けします。

●博物館からのお知らせ

最新の情報は、博物館ウェブサイトや公式Ｘ（旧 Twitter）でお知らせしますので、ご来館の際は必ず事前にご確認ください。

・ウェブサイト： https://nh.kanagawa-museum.jp/
・公式Ｘ： @seimeinohoshiPR
・混雑情報Ｘ： @seimeinohoshiCI

博物館NOW

30 周年の節目の年に

副館長　大河原　邦治

友の会の皆様、こんにちは。

今年４月に着任しました大河原です。県職員となってから 30 年となりますが、社会教育施設での仕事は初めてです。微力ながら頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、着任以降、これまで感じたことを、博物館初めて目線でいくつか。

毎日、多くの子どもたちが当館に来てくれます。普段見ることのできない展示を目にした子どもたちは、大声で、時に奇声を上げています。静かに過ごさなければならない、美術館や図書館とは、かなり様子が違います。

立地も都市部ではなく、自然豊かな県西部にあるところがとてもいい。さすが自然史系博物館、この地域を選定され、開館に尽力された諸先輩方には、敬意を払うばかりです。（横浜市在住の私にとって遠距離通勤はつらいところですが。）

入生田自治会をはじめとした地域の方々の理解もあり、また県西部地域のミュージアム施設の方々との交流や連携した催しも素晴らしい。

身内になりますが、当館学芸員の献身的な姿勢とその取組には頭が下がるばかり。みな当館を愛しているのが分かります。

平成７年に開館した当館は、今年度で開館 30 周年となります。

友の会は、当館の開館とほぼ同時期に発足され、会員自らが講座等を企画することを大きな特徴とされているとうかがいました。

友の会の皆様や多くのボランティアの方々のお力添えがあってこそ、当館の運営が成り立っています。

これまで多くの方々と歩んできた当館の活動が、未来に向かって発展的に継続できるよう、私も日々努力したいと思います。

また、30 周年の節目の年に着任したことは何かの縁かもしれません。私自身も仕事以外で何か一つ、「集める」「調べる」「伝える」を始められる機会にしたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

こんな私が博物館に！？

企画情報部長　芳賀　洋一

友の会の皆様、こんにちは。今年４月に監査事務局総務課から参りました芳賀と申します。県庁に入庁して 35 年余、主に人事、総務などの内部管理業務と許認可業務という、いわゆるお固い仕事ばかり経験してきました。

そんな私が初めて教育委員会へ異動、しかも生命の星・地球博物館の企画情報部長に就任することになり、異動内示の日には余りにも想定外のことに目が点になりました。（ちなみに博物館への異動は県庁事務職員にとってはあこがれの的のようで、同じく県職員である妻から「ものすごく羨ましい！！」と言われました。）

今までの私と博物館との関わりですが、浮世絵や日本画が好きなので美術館にはよく出かけていました。しかし、自然史系博物館には殆ど行ったことがなく、１年前に妻に連れられて（妻は美術館も博物館も大好き）国立科学博物館を訪れ、初めてその楽しさを知ったという有様。生命の星・地球博物館も、申し訳ないことに箱根に行く時にクルマで横を通過しただけでした。

こんな私ですが、４月から実際に博物館で働き始めて今まで抱いていたイメージ（といっても恐竜の骨や動物のはく製などが陳列されているという陳腐なイメージですが）がガラリと変わりました。

博物館は「集める」「調べる」「伝える」の三本柱の活動を行っており、学芸員の方々がそれぞれの専門分野で日々調査研究を行いその成果を発信し続けていること、さらに、博物館の活動を友の会の皆様やボランティアの方々が支えており学芸員や博物館にとって欠かすことができない存在になっていることに、大変驚かされました。実際に館内でボランティアの方々が目を輝かせながら活動している姿を目にして、博物館とボランティアがウィンウィンの関係になっていることをしみじみと感じました。

私も微力ながら博物館の活動を支えていきたいと思います。今後ともよろしくお願いしたします。

活動報告（植物グループ）

◆植物観察会「身近な植物観察入門」

2024 年 5 月 25 日（土）／博物館周辺／10 名（スタッフ含む）／担当：植物グループ

初参加の方から常連さんまで 7 名の参加者と吾性沢方面へ向かいます。坂道に入るとビヨウヤナギが満開でした。雄しべの数の多さに改めて感じ入り、雌しべは長く伸びてその先端（柱頭）が 5 つに分かれていることを見ます。

外来の雑草で始末に負えないトキワツユクサ（ノハカタカラクサ）の雄しべも見てみましょう。ここにも多数の雄しべ―と思ったら黄色い葯（やく：花粉を収める器官）が付いているのは 6 本だけ、その他は糸だけのようです。これをルーペでよく見ると、透明で美しく光るミクロな数珠玉が連なっています。これは何でしょう？

トキワツユクサ（参加者撮影）

林の上空にカラスザンショウが複葉を広げているのを見て、幹を探してトゲだらけなのを確認します。大きな幹ではトゲが無くなりトゲ根元の膨らみだけが残っていました。（ひとと一緒で年を取ると丸くなるのかな。）ネズミモチ、シラカシ、ムクノキなど他の樹木も観察しながら進むと、ヤブソテツ、ホシダ、イノデ、イワガネゼンマイなどシダ類も出てきました。

吾性沢を過ぎると左に各種のシダ類、右にヒメコウゾの群落があります。ヒメコウゾは熟すには未だ早いようですが、その実の味について「美味しい」、「いや口当たりが悪い」と昨年 6 月の議論が蒸し返されていました。

三叉路を右に下って戻る前に、細い山道に少しだけ入り、ヤブムラサキの若葉やつぼみのふかふかした毛を見て、触って感じ取ることができました。

解散は正午を少し回ってしまいましたが、時折吹く風が気持ちの良い天気の中、みなさん植物を満喫されたと思います。なお今回は参加者の皆様の写真を使わせていただきました。

（植物グループ　松井宏明）

ヤブムラサキ（参加者撮影）

観察会風景

「大雄山最乗寺の初夏の植物」中止

2024 年 5 月 7 日に予定しておりました植物観察会『大雄山最乗寺の初夏の植物』は雨天のため中止いたしました。（友の会　植物グループ）

◆植物観察会「身近な植物観察入門」

2024 年 6 月 22 日（土）／博物館から吾性沢／
11 名（スタッフ含む）／担当：植物グループ

例年より遅い梅雨入り宣言後の晴れた 1 日、今日の観察会は参加申し込み者 8 名と植物グループ担当の 3 名である。博物館の前庭にセイタカアワダチソウを発見する。これは全草アトピーに効き、全草干してお風呂に入れるといいそうです。

歩き始めると、石垣のシダが目につく。このシダは？とひとつ、ひとつ確認していく。坂道に差し掛かると石垣に満開を過ぎ花柱が長く伸びたビヨウヤナギが目に入る。花柱は先端部のみ 5 つにわかれている。

満開のビヨウヤナギ

上り坂の突き当りの石垣の上にネムノキの大木がそびえ、花がたくさん咲いている。わあーきれいと！声があがる。下に落ちていた花を皆で観察、沢山の長い赤い雄しべの中にある白いめしべを確認する。

参加者の S さんがタシロランを発見！5～6 株あった。

タシロラン　参加者が発見

トゲを触ると痛いムカゴイラクサが、1 本の茎の下部葉腋に雄花、茎の先端に穂状に雌花をつけ、葉腋にはムカゴもつけ始めていた。

更に坂道をのぼっていくと、ヒメコウゾの木が何本かでてきた。葉の下に隠れるように食べごろの実がたくさんついていた。丁度のどが渇いていたので皆で、オレンジ色によくうれた実を食べた。

今度はキンシバイの花を発見！歩きはじめに見たビヨウヤナギと同じ仲間で見た目も似ている。 花柱はビヨウヤナギほど長くはのびていないし基部は合着していなかった。こちらの花は見ごろで沢山の雄しべが 5 束に大きく分かれているのが確認できた。

咲き始めたキンシバイ

シオデもつるをのばし、雄花が咲き始めていた。

シオデの雄花

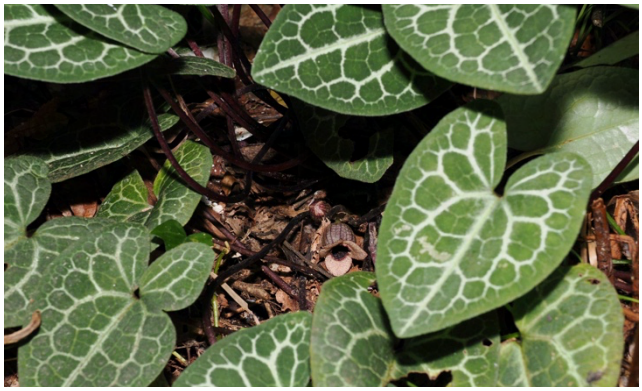
11 時 30 分をすぎたので、引き返すこととする。咲き始めていたヒメヒオウギズイセン（ヒオウギズイセンとヒメトウショウブの栽培雑種）やヒメワラビやアマクサシダ、コモチシダなどのシダをみながら、12 時過ぎに入生田駅につき、解散となった。
（植物グループ　佐々木シゲ子）

◆植物観察会「ケイワタバコに会いに行こう」
2024 年 6 月 26 日（水）／箱根町宮ノ下堂ヶ島渓谷／15 名（スタッフ含む）／講師：田中徳久当館館長／担当：植物グループ

６月も後半になり、野山の花も少なくなってきた中、今回は箱根堂ヶ島の「ケイワタバコに会いに行こう」というコンセプトの観察会である。

堂ヶ島渓谷遊歩道は箱根宮ノ下から下った早川沿いにある。

梅雨の合間のムシムシした日だったが、まずはウラジロガシ、イロハモミジ、ケヤキなどの大木が日差しを遮った遊歩道の所々で足を止めては、箱根が基準産地のイワニンジン、ふわふわした触感のイヌシダ、若い実をつけたフサザクラ等々を観察した。数か所にあったオトメアオイは丁度開花時で、まだ初々しい花と葉を目の高さで観察できた。



オトメアオイ（ウマノスズクサ科）

さて、お目当てのケイワタバコ。湿った擁壁に群生するケイワタバコの花は最盛期に比べると大分咲き終わっていたが、紫色の花冠やつややかな葉に参加者から「きれい、きれい」の声が上がった。

ケイワタバコ（イワタバコ科）

しばらく花を堪能した後講師の田中館長から、ケイワタバコとイワタバコの違いや両種の県内分布について、資料をもとに解説していただいた。

早川に架かる夢想橋を渡った。

ここからは、今迄下ってきた分だけ早川沿いに上り返すことになる。汗が噴き出してくるが、時に早川の清流から涼風が届き、ほっと一息つけた。岩壁にヒメウツギ、ハコネシダ、イワトラノオなど。
発電所そばの広場で昼食後、田中館長から、富士、箱根、伊豆などフォッサマグナ地域に特有な植物（フォッサマグナ要素の植物）についての解説があった。午前中に観察した植物の中では、カナウツギ、ウラハグサ、オトメアオイ、イワニンジンがそれにあたる。

午後、注目種のオサシダは生憎すぐそばの大木が倒れていて足場が悪かったが、根茎が岩壁を這っている様子や、葉柄の鱗片など観察した。

吊り橋の手前で参加者が、見頃のツチアケビ、タシロランを見つけてくださった。いろどりが少し寂しかった今日の行程の終盤が華やいだ。

ツチアケビ（ラン科）

最後はバス通り迄上がる山道になり、皆さん少し無口になった。やっと通りに出た瞬間、午後の日差しが一気に襲ってきて、「あぁ早川沿いの道は良かったなぁ～」と痛感。

ここで観察会終了、バスで帰路についた。

今回は、梅雨入りしたばかりで坂道や階段で滑らないように気を遣ったのと、連日の暑さで熱中症を心配したが、無事終了出来て何よりだった。
（植物グループ　田畑節子）

活動報告（サロン・ド・小田原）

◆第 140 回サロン・ド・小田原
「クジラー海に棲む哺乳類とその調査ー」
2024 年 5 月 25 日（土）／西側講義室／14 名／西村双葉学芸員（当館学芸員）

話題提供者の西村双葉学芸員

2024 年度最初のサロン・ド・小田原の話題提供者は、一昨年に赴任された西村双葉学芸員でした。ご自身の専門である鯨類について、素人にもわかりやすいように丁寧に話してくれました。トークセッション 1 では、「クジラとはどんな生物？」というテーマで、クジラに関する基本的な知識を教えていただきました。私は地学の学芸員のため、ハクジラとヒゲクジラの違いくらいは多少知っていたのですが、両者では骨格の対称性や鼻の孔の数が異なることなど、大変勉強になりました。

ハクジラの骨格について標本で説明

トークセッション 2 では「クジラの調査研究」というテーマで、ご自身がこれまでに行ってきたクジラの研究についてお話しいただきました。クジラの調査には、生態調査、進化に関する調査、遺伝学的調査、分布調査、形態調査などがあり、このうち西村学芸員は形態調査を専門としていること。特に大学院時代は北半球に生息するミンククジラと、南半球に生息するクロミンククジラの形態の研究を行ってきたこと。その調査のために南極海で 83 日かけて調査航海した様子を紹介していただきました。さらに当館学芸員に赴任してからは神奈川県にストランディング（クジラが海岸に漂着や座礁してしまうこと）するクジラ調査を中心に行ってきたことを紹介。特に 2022 年に小田原市の石橋に漂着したアカボウクジラについて、体長などを計測する調査風景や、表皮をメスで切り取り採集する様子など、動画を交えて紹介していただきました。荒波迫るゴロタの海岸でクジラを調査する様子は、参加者の皆さんも興味深く見られていたようです。

調査風景を動画を用いて解説

最後にクジラがストランディングした際の注意点や、ストランディングの情報提供のお願いがありました。クジラやイルカのストランディングを見つけた場合、個体が生きているときにはすぐに水族館（県内では新江ノ島水族館または横浜・八景島シーパラダイス）に連絡、死亡している場合には、当館または水族館に連絡することで県内のストランディング個体の保護や調査が大きく進みます。この際、人側の感染症やケガの予防、クジラ・イルカ側のストレス軽減のため、個体に触らないことが重要です。

私自身も何度か西村学芸員とストランディングしたクジラの調査に同行しています。今後はただ付いて行くだけではなく、行われている調査の目的や内容を理解しつつサポートしたいと思います。
（山下浩之）

活動報告（地学グループ）

◆地話懇話会「世界の地形と地質。こんなところに行って、見てきた！」

2024 年 6 月 26 日（水）／西側講義室／20 名／講師：平田大二氏（前生命の星・地球博物館館長）

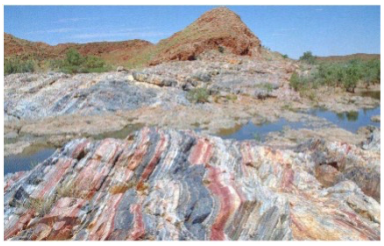
講師の平田大二氏

「世界の地形、地質愛」が随所ににじみ出たお話に聞き入ってしまいました。提示された話題に対し、参加者もざっくばらんに質問をしたり、意見を述べたり、懇話会というイメージが濃い形式で、企画された方々のお考えが伝わってきました。

先生は 44 年もの間、博物館にて勤務され、その間に博物館視察、地質調査、学会参加など、なんと 33 カ国を訪れたといいます。グリーンランド、北アイルランド、スコットランド、チリ、カナ ダ、アメリカ合衆国、ネパールなどたくさんある写真の中から、選りすぐった 55 枚を見せていただきました。数多くのお写真の中から、55 枚を選ぶだけでも大変なご苦労があったと思います。

38 億年前の片麻岩を有するグリーンランド・イスアからスタートし、最後はエクアドル・ガラパゴス諸島の海イグアナと陸イグアナのかわいいツーショットの写真で終わりました。

以前、私がグリーンランドの観光に行ったとき、イスアには行かなかったものの、同じ大陸なので、かなり古い岩石かも知れないと思い、図鑑の写真と似ている岩石を持ち帰りました。館長室に行き、それらの岩石を見ていただきました。お忙しい中、丁寧に一つ一つの石を見てくださいました。今でも良い思い出になっております。造詣の深い方々とご一緒に行っていたらどんなに良かっただろうと思っております。


西豪州 35 億年前のチャート

西オーストラリアでは 27 億年前の縞状鉄鉱層、35 億年前のチャートのお話をしてくださいました。「なんと 35 億年前のチャートがあるのですよ。」ご自分の驚きを私達に共有してくださいました。北アリルランドのジャイアンツ・コーズウェイの柱状節理、米国のハワイ島グリーンサンドビーチ、ユタ州の恐竜国定公園、グランドキャニオン、イエローストーン、今もその場にいるかのようにわくわく感一杯にお話しされていらっしゃいました。ここでも地層、露頭愛がにじみ出ていました。グリーンサンドビーチに行ってこの手でオリビンの砂をつかんでみたいと思いました。ユタ州の恐竜国定公園は行くことは不可能な場所ですが、専門家の人たちの解説をお伺いしながら埋もれている骨を見ることができたら、どんなにすばらしいことでしょう。

ハワイ島グリーンサンドビーチ

ユタ州の恐竜国定公園

スコットランド・シッカーポイント

たくさんの興味をそそられるお話の中でも、特に、「スコットランド南東部シッカーポイントにあるハットンの不整合」は印象深かったです。シッカーポイントはスコットランド東部海岸のある岬で、ジェームス・ハットンが彼の地質理論である斉一説を証明するものとして発見した不整合のある場所として地質学上有名なところだそうです。行くことは困難なので、ネットで行き方を調べ、グーグルアースを見て実際に行った気分に浸ることにしました。ハットンは「ダングラス・バーン海岸から小舟で出発し、海岸沿いを南へと向かう。リード・ポイントの岬には上陸せず、さらに南下する。ピース湾の美しい砂浜につく。砂の中から美しい赤色砂岩の崖が隆起するのが見える。さらに南下を続け、次の岬を回ったところで船を降り、海岸にある崖は、底に灰色の雲母状片岩の露頭を見せ、層は横縞でなく垂直に、その上に礫岩の入り混じった層が数フィートある。さらに黒泥層の上に別の水平な岩石層が見える。それらの層は赤色の岩肌をしている。ここがシッカーポイントであり、4 億 2500 万年前のシルル紀の垂直なグレーワッケ地層に、やや傾斜した 3 億 4500 万年前のデボン紀旧赤色砂岩地層が被さっ

ているところである」と記しています（フリー百科事典ウィキペディア）。

生まれ変わったら、地学を専攻し、平田先生のように日本、世界のいろいろなところを歩き回る人生を送りたい。さしあたっては、グーグルアースを使い、ネットの解説付きで、世界のあちらこちらを自由気ままに歩くことにする。

（文：湯川清子、写真：平田大二）

活動報告（よろずスタジオ）

◆「そこにもここにも菌類が」

2024 年 6 月 23 日（日）／博物館講義室／58 名（大人 27 名、子ども 31 名）／協力：折原学芸員／スタッフ：5 名

今年のよろずスタジオ「菌類分野」は、昨年実施したのと同じ「そこにもここにも菌類が」のタイトルで行いました。身の回りに色々な菌類が生きていることに気づいてもらうのが目的です。

「菌類」というと、一般の人はキノコを思い浮かべるので、まずはキノコの解説、コンクリートや木の幹に藻類と共生して生きている菌類「地衣類」の紹介、生きた植物に寄生して生きている「植物病原菌」の紹介、そして野外の何処にでもいるけど、中々注目されないカビの仲間の面白い形の胞子の紹介をしました。

菌類全般の解説

その後、採れたばかりの大きなキノコ（オオチリメンタケ）やアンズタケ、サルオガセなど地衣類、ビヨウヤナギに感染する植病菌を手に取って見てもらいました。大きな乾燥標本のオオミヤマトンビマイからの匂いは強烈で、参加者の印象に残ったと思われます。

カビ部門では、今回初めて顕微鏡の画像をモニター画面に表示して、実感を持ってもらえるように工夫しました。参加者の反応は、日頃肉眼で見るものと、画面にあるものがすぐには結びつかず、半信半疑の様子も見られましたが、自然界で生きる微小な生き物についての印象は、変わったものと思います。

特にカビ解説の中で紹介された、どこでも見かける落ち葉の中に住んでいるカビに向かって、どんどんフォーカスしてゆく動画（山下ひかる撮影・編集）は、人知れず生きるカビの美しい胞子を手に取るように見せてくれる素晴らしい作品で、見る人を魅了しました。（動画アクセス https://youtube.com/playlist?list=PL28CFWDhh6oB31qh8tYXEGegGT25u3wEf　又は下記 QR コードから）

「よろずスタジオ」は小さな試みですが、自然界の生き物について、認識を新たにする機会になるよう、続けられたらと思っています。　（友の会赤堀千里）

朝採れキノコも並べて

どんな匂いかな？

行事案内

◆ 植物観察会「身近な植物観察入門」

植物グループのスタッフと博物館周辺を観察する初心者中心の気楽で楽しい会です。
会員以外の方も大歓迎です。

日　時：10 月 26 日（土）・11 月 23 日（土）
　　連続して出る必要はありません
集　合：博物館正面　前庭　10 時
解　散：同所　12 時頃
参加費：50 円（保険料）
講　師：友の会植物グループ
対　象：オープン・どなたでも
　　小学 3 年生以下は保護者同伴でお願いします。
持ち物：飲み物・雨具など
　　お持ちの方は虫メガネ・ルーペ等の拡大鏡
申込み：友の会の WEB フォームで
　　申し込み開始は友の会通信到着後から
　　締め切りは下記電話の場合と同様
　　＊メールを使わない方は各月担当者へ電話で
　　下記の期間内の 18 時～21 時

・10/26 観察会：　石井　080-6618-1467
　　申込：　10/21（月）～10/23（水）
・11/23 観察会：　小久保　090-4136-3025
　　申込：　11/18（月）～11/20（水）
問合せ：上記電話申込み担当者へ　18 時～21 時
　　（博物館には問合せないで下さい）

＊雨天等で中止の場合は、申込者に担当から電話連絡いたします。

◆ 植物観察会「幕山周辺の秋の花」

幕山公園から幕岩を眺め、幕山登山口を右に見て左の川沿いのほぼ平坦なハイキングコースを歩きます。ヒキオコシ、ヤマハッカ、リンドウ、ヤマラッキョウなど秋の花をゆっくり観察＆鑑賞しましょう。

実施日：2024 年 11 月 2 日（土）　雨天中止
場　所：足柄下郡湯河原町鍛冶屋
集　合：JR 湯河原駅　駅前広場 9：40
　　10:00 発幕山公園行きのバスに乗車
解　散：幕山公園　15:00 頃
　　（15:20 発湯河原駅行きのバスに乗車）
講　師：田中徳久氏　当館館長
対　象：オープン（どなたでも）　大人 15 名
参加費：会員 500 円　　非会員 700 円
申込み：10 月 19 日までに友の会通信の最後のページに記載の QR コードまたは URL から WEB フォームにアクセスし、お申し込み下さい。
　　メールを使わない方は 10 月 17 日～19 日の 19 時～21 時の間に電話で申し込んで下さい。
電話申込先：浜岡　090-7823-7427
当日連絡先：浜岡　同上
　　近田　090-7902-8501
＊詳細はメール等でお知らせします。

ヒキオコシ（シソ科）

リンドウ（リンドウ科）

◆ よろずスタジオ「葉っぱで遊ぼう」

赤や黄色や緑の葉っぱ、長い葉っぱや丸い葉っぱ、11 月は葉っぱに注目！切ったり、貼ったり、自分だけの葉っぱの作品を作って、葉っぱと友達になりましょう。

日　時：11 月 17 日（日）13：00～15：00
対　象：子ども（当日の来館者）
申込み：不要／オープン
参加費：無料
場　所：博物館 1 階　東側講義室

昨年のよろずスタジオ「葉っぱで遊ぼう」

◆　生物間共生講座XII
「菌類による枯れ木の分解と森林の生物多様性・炭素貯留」

日　時：2024 年 11 月 24 日（日）10：30～14：30
場　所：博物館 1 階講義室（東西両側）
講演者：深澤　遊氏（東北大学農学研究科准教授）
申込み：往復はがき又はメールで必要事項を記して下記アドレスへ。メールは題を「11 月 24 日共生講演会申し込み」として下さい。
アドレス：c.akahori@gmail.com
締切り：11 月 9 日（土）必着
参加費：1,100 円／人（会員以外 1,500 円）
対　象：オープン、中学生以上
連絡先：080－1088－9269（菌事勉強会：赤堀）

「木材腐朽菌と演者」
（チェコのドイツトウヒの森で）

内容紹介（講演者より）
　菌類は枯木や落葉といった有機物の分解や樹木との共生・寄生関係を通して、森林生態系の炭素循環において重要な役割を果たしています。菌類は細い糸状の菌糸が大規模にネットワークを作った菌糸体を基本的な体制として生活しています。菌糸体には脳も神経系もありませんが、記憶や決断といった知的な行動を取ることがわかってきました。
　分解の主役である菌類は気候の変化に対応して種組成や表現型を変化させるので、気候変動に伴う炭素循環の変化を正確に予測するには、分解に関わる菌類群集の応答を正確に理解することが重要です
　枯死木分解力の強い木材腐朽菌による木材分解は、木材を構成する 2 大成分であるリグニンとホロセルロースが両方分解される白色腐朽と、ホロセルロースのみ分解される褐色腐朽という 2 つの「腐朽型」に分けられます。本講演では腐朽型をひとつのキーワードに、生態系の中での菌類の働きを詳しく見ていきましょう。

◆　地質観察会
「三浦半島南部で使われている石材観察」

日　時：12 月 7 日（土）10：00～12：00
場　所：三浦市三崎周辺（三崎口駅集合）
講　師：当館学芸員　田口公則氏・山下浩之氏
対　象：友の会会員
内　容：三崎にはレトロな街並みが残り、房州石を用いた石蔵や、中には地元凝灰岩系の石垣、石塀などが見られます。街歩きしながら、見分けが難しい軟石石材を巡ります。
備　考：詳細はチラシにて

三崎にみられる石蔵
（手前に軟石使用）

◆　第 142 回サロン・ド・小田原
「”古標本”により甦る 100 年前の相模湾の魚類相」

話題提供：和田　英敏　氏（当館新人学芸員）
講演日時：2025 年 1 月 11 日（土）14:00~15:30
　　受付は 13:40 から
場　所：生命の星・地球博物館　西側講義室
対　象：オープン
定　員：45 名　先着順　事前申込みなし。
参加費：無料

内容紹介
　相模湾は太平洋に面した開放性の湾であり、干潟、砂浜、岩礁、アマモ場、サンゴ群集域などの多様な底質環境をそなえ、さらに湾の中央には水深 1,500ｍを超える深海域が広がるなど、多様な魚類の生息環境が整っています。そんな相模湾はじつは明治時代から現在まで魚類の研究が行われてきたフロンティアであり、100 年以上前に得られた標本も現存しています。そんな“古標本”から 100 年の相模湾の魚類相を再現する研究によって，この海に住む魚の種構成が現在までにどう変わってきたのかを紹介します。

「コバンアジ Trachinotus baillonii（KPM-NI 4592，小田原市国府津，1936 年 10 月）」

◆　地話懇話会

演題 1「マウンテン・考古学・地質学の はざまー私のジオパーク巡りー」

話題提供者：友の会地学グループ　黒田洋一氏

演題 2「行った、見た、拾った・・・ 私のふりかえり」

話題提供者：友の会地学グループ　加藤美佐子氏

白滝ジオパークの 8 号黒曜石露頭　河原や海岸で拾った石や化石など

日　時：2025 年 1 月 18 日(土)14:00～15:30
　　受付は 13:40 から
場　所：生命の星・地球博物館西側講義室
対　象：友の会会員
申　込：当日受付制（人数制限は設けません）
備　考：詳細はチラシにて

◆　地図を楽しもう

地図をお供にフィールドに出れば、興味ワクワク、楽しさ倍増！　地図に載っているいろいろな情報を知り、これを活用するためのコツを学びます。地図が少しでも理解でき身近なものになれば、フィールド探索では、今までとは違う世界が見えてきます。午前中は地図の読みかたのコツを学び、午後は地図を持ってフィールでの実地学習をします。

日　時：1 月 19 日（土）10：00～15：30（予定）
場　所：博物館実習実験室・博物館周辺の屋外
講　師：新井田 秀一　当館学芸員
対　象：おとなの方(小学高学年以上同伴も可)
定　員：14 名(定員を超えた場合は抽選)
参加費：会員 600 円(地形図代・資料代・保険料等)
　　非会員 800 円(同)
持ち物：筆記具、色鉛筆、昼食、申し込みはがき、
　　お持ちの方はコンパス(方位磁石)
注意事項：午後は屋外に出ますので、歩きやすい服
　　装と防寒への対応をお願いいたします。
締切り：1 月 8 日（水）必着
申込み：この講座は **WEB フォームによる申込み**が
　　できます。本欄後ろの「友の会主催行事の参加
　　申込みについて」をご覧ください。
問合せ：関口　080 - 6508 - 9840

友の会主催行事の参加申込みについて

◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。

■必事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は指定された方法（メール・電話等）にてお申し込みください。

◆現在、一部の講座で WEB フォームによる申込受付を行っています。以下の QR コード又は URL よりアクセスして、申込をしてください。

URL：
https://docs.google.com/forms/d/1mZYCyRovh0iHe5DvvDGfzaWu0KLUkP-6viVd-ZACQy8/edit

注意！

■参加費は友の会会員 1 名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。

■持ち物など詳細はメール・返信はがきに記載されます。

次号は、2024 年 12 月 15 日発行予定です

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
　　Vol.28、No.2、通巻 125 号 2024.9.15 発行
編集：友の会広報部
〒250-0031　神奈川県小田原市入生田４９９
TEL：0465-21-1515　FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：http://blog.livedoor.jp/kpmtomo
Twitter：@kpmtomo